

5、6年生家庭学習のてびき

(宿題・自主学習)

学習時間の目安
50～60分以上

＜子どもたちの様子＞

- 高学年でも、まだまだ言葉かけは必要です。
- 苦手な教科こそ力をいれるようにしましょう。
- 体も心も急激に変化します。心が不安定になることもあります。家庭と学校で連絡をしっかりと取り合いましょう。

◇認めて伸ばす◇

子どもの話をよく聞き、個々の成長を認めることで、将来の夢や目標をもって努力するようになります。



ポイント

①子どもをみる

- ・計画を立てて自主的に学習を進めるよう声かけをする。
- ・漢字や計算の方法が覚えているか確かめる。
- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。
- ・他の子と比べず、昨日のわが子と比べてほめる。

②学習環境について

- ・夕食前、早朝など、学習に取り組む時間帯を決める。
- ・テレビやゲームは家族で話し合って時間を決め、学習中は、スイッチを切る。
- ・まず宿題を済ませる。
- ・読書の時間をつくる。

③学校との協力

- ・子どもの話をよく聞き、学校と家庭で情報を共有する。
- ・親子で対話し、子どもの好奇心を高め育てる。

高学年で身につけたい力

調べ、まとめ、伝える力を身につける5・6年生

- ・すじ道を立てて考えたり、文章に書いたりすることができる。
- ・文章や資料を正確に読み取ることができる。
- ・基本的な四則計算ができる。
- ・アルファベットの大文字・小文字を書くことができる。
- ・パソコンで、ローマ字入力ができる。
- ・インターネットや事典、新聞などで調べたいことを調べ、まとめることができる。

【自主学習の例】(詳細は児童ノートに添付)

- ・テスト勉強をしたり、テストで間違えた問題をやり直したりする。
- ・わからない点を確認めながら勉強する。
- ・興味関心のある事に自分から進んで調べたりまとめたりできる。

家族の協力



自分の
努力!



中学へ向けて

学習時間の目安
60～90分以上

高学年になると中学校に向けた学習についても意識していく必要があります。ここでは、小学校と比べて中学校では何が変わるのかとその変化に向けた取り組みのポイントについて述べます。

◆教科ごとに先生が変わります◆

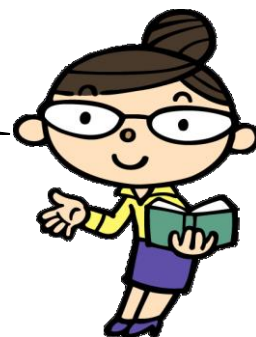
中学校では、教科ごとに教える先生が変わります。小学校のように、担任の先生がほとんどの教科を教えるわけではありません。よって、板書の仕方、ノートまとめ方、宿題の出し方などが先生によって違ってきます。それぞれの先生の教え方にいかに早く慣れて対応していくかが大事になってきます。



◆テストのやり方が変わります◆

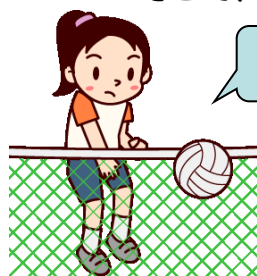
中学校では中間テストや期末テストといった定期テストに変わります。自分の現時点での学力をはかる実力テストもあります。テストの回数は減りますが、テストの範囲が広がるのです。

そこで、復習を中心としたテスト対策が必要となってきます。



◆生活のリズムが変わります◆

中学生になると授業だけでなく部活動も始まり、学校で過ごす時間が長くなります。その分、帰宅時間が遅くなります。そして、余裕のあった家庭での時間が限られたものとなってきます。その中で、家庭学習の時間を確保していかなければなりません。



ポイント

①授業を大切に！

「教科によっては予習をして授業にのぞむ(国語の意味調べや音読、社会の調べ学習等)。
※ 中学校では、英語の意味調べや音読も大切になってきます。授業でわからなかったところは先生や友達に聞いてその場で解決する。出された宿題や課題は最初に取り組み、確実に提出する。

②テスト対策を！

わからなかったところは何度も繰り返して復習する。
(次の日、3日後、1週間後) 漢字や社会科の暗記物は宿題だけでなく、毎日繰り返して覚える。
学期末テストの前には計画を立てて学習に取り組む。

③学習時間の確保

テレビやゲームの時間を制限していく。テレビやゲームの時間を取り過ぎて他の時間を犠牲にしない。どんな日でも毎日学習する習慣を身につける。
中学校では2時間が目安。根気よく集中して取り組む時間と環境を整える。